

# 海外派遣事業報告書 2023

## シンガポール・ベトナム



公益社団法人

北海道国際交流・協力総合センター

## 目次

|           |    |
|-----------|----|
| 研修事業概要    | 1  |
| スケジュール    | 2  |
| 海外派遣研修団名簿 | 3  |
| 実施内容      | 4  |
| 参加者レポート   | 9  |
| 行動記録      | 20 |

# 海外派遣事業報告書 2024

## シンガポール・ベトナム

### 1 趣旨

北海道は、2016年にASEAN諸国への輸出拡大、誘客の促進、対内投資の促進を目的としてシンガポールに北海道事務所を開設、また2017年にはベトナム計画投資省との間で「経済交流に関する覚書」を締結し、両地域間で経済、人材の交流を拡大することとしている。

この状況のもと、HIECCでは本道の企業や大学などで活躍する人材をシンガポール及びベトナムに派遣し、関係機関の訪問や関係者との意見交換などを通じて、今後の両地域における経済人材交流の可能性に向けて情報を収集するとともに、異文化や国際交流等に対する理解を深め、国際的な視点に立って地域づくりを進める人材を養成し、地域の国際化の促進に資する。

### 2 訪問国

シンガポール、ベトナム

### 3 派遣対象者

北海道の青年

### 4 研修内容

(シンガポール)

- ・北海道とシンガポールとの経済交流状況理解(道ASEAN事務所、JETERO)
- ・関係機関視察、意見交換(道進出企業、日本語学校)
- ・シンガポールにおける多文化共生政策理解(CLAIR、国際交流団体)

(ベトナム)

- ・人材交流関係機関視察(政府系人材開発機関、送り出し機関、日本語学校)
- ・関係機関視察、意見交換(道進出企業、大学)

### 5 派遣計画

- ・日程:令和6年1月14日(日)～1月21日(日) 8日間
- ・派遣先:シンガポール、ベトナム(ホーチミン市)
- ・派遣人数:5名

※道内企業や団体、法人等に所属する社会人などで所属機関の推薦を得ているもの。

### 6 参加負担金

15万6千円

### 7 旅行主催

株式会社エイチ・アイ・エス

## スケジュール

| 日次 | 月日・曜日        | 都市名                               | 時 間                                     | 交通機関                            | 内 容   | 宿泊地                          |
|----|--------------|-----------------------------------|---|---------------------------------|---|------------------------------|
| 1  | 1月14日<br>(日) | 集合<br>新千歳空港<br>羽田空港<br><br>シンガポール | 6:50<br>7:50<br>9:30<br>10:55<br>17:30  | JAL500<br><br>JAL037<br><br>専用車 | 新千歳空港国内線ターミナル<br>羽田空港経由で<br><br>シンガポール着<br>ホテルへ移動   | シンガポール<br>(ザ・シーケアホテル)        |
| 2  | 1月15日<br>(月) | シンガポール                            | 11:00<br>13:00<br>14:30<br>16:00<br>夜   | 公共機関<br><br>↓                   | JETRO 訪問 (経済交流状況)<br>北海道事務所訪問 (北海道状況)<br>CONDE HOUSE Singapore<br>CLAIR 訪問 (多文化共生)<br>交流会 | シンガポール<br>(同上)               |
| 3  | 1月16日<br>(火) | シンガポール                            | 午前<br><br>午後                            | 公共機関<br><br>↓                   | 日星文化協会 (多文化共生)<br>" 日本語学校<br>IR 施設視察 (セントサ島)<br>" (マリナベイ イズ)                              | シンガポール<br>(同上)               |
| 4  | 1月17日<br>(水) | シンガポール<br><br>シンガポール空港<br>→ホーチン空港 | 午前<br>午後<br>18:25<br>20:00              | VN654<br><br>専用車                | 自由行動<br>"<br>ホーチミンへ移動<br><br>ホテルへ移動   | ホーチミン<br>(リバーサイドホテル<br>サイゴン) |
| 5  | 1月18日<br>(木) | ホーチミン                             | 9:30<br>11:00<br>14:00<br>18:00         | 専用車                             | ベトナム投資開発銀行訪問<br>サップロボトナム訪問<br>" ロンアン工場<br>夕食  | ホーチミン<br>(同上)                |
| 6  | 1月19日<br>(金) | ホーチミン                             | 9:00<br>9:30<br>11:00<br>14:00<br>18:00 | 専用車<br><br>↓                    | ホテル発<br>越日工業大学訪問<br>VJCC 訪問<br>エスハイ訪問<br>交流会  | ホーチミン<br>(同上)                |
| 7  | 1月20日<br>(土) | ホーチミン<br><br>ホーチン空港               | 午前<br>午後<br>夕<br>23:40                  | 専用車<br>JAL070                   | 自由行動<br><br>集合→空港へ移動  | 機 内                          |
| 8  | 1月21日<br>(日) | →羽田空港<br><br>→新千歳空港               | 6:50<br>9:00<br>10:35                   | JAL507                          | 羽田空港経由で<br><br>新千歳空港着、解散  |                              |

## 海外派遣研修団員名簿

(五十音順)

| No | 氏 名                | 性別 | 職 業  |                            |
|----|--------------------|----|------|----------------------------|
| 団員 | いのうえ しょうご<br>井上 奨吾 | 男  | 公務員  | 旭川市役所                      |
| 〃  | かわぼた えいじ<br>川端 英司  | 男  | 会社役員 | 株式会社セラビ                    |
| 〃  | まくうち しほ<br>作内 志帆   | 女  | 会社役員 | 株式会社アールズエース                |
| 〃  | ひかげ かずや<br>日影 一哉   | 男  | 会社員  | 日興美装工業株式会社                 |
| 〃  | ふじおか しゅんや<br>藤岡 俊也 | 男  | 会社員  | 株式会社HBA                    |
| 引率 | かねこ のりゆき<br>金子 徳之  | 男  |      | 公益社団法人<br>北海道国際交流・協力総合センター |

## 実施内容

### ○シンガポール

#### JETRO 訪問 (1/15 11:00~12:00)

本田シニアアナリストより、シンガポールの経済概況と日系企業の進出動向についてお話を伺った。シンガポールでは近年、年2~3%のGDP経済成長率を達成(2023年は1.2%)、主な産業はサービス業と製造業となっており、特に製造業のうち48.5%は半導体を代表とする電子分野とのこと。

海外進出にあたってはアジアのビジネス拠点として政治・社会的安定性や英語が公用語であるメリットがある一方、物価高により駐在員等のコスト増が課題となっているとのことであった。



#### 北海道 ASEAN 事務所訪問 (1/15 13:00~14:00)

岡部所長より、北海道事務所の活動内容についてお話をいただいた。昨年11月にベトナム・ハロン湾で開催された「北海道フェスティバル」の紹介や北海道旅行展の出展協力などを通じて、道では食と観光の分野でアジア市場の販路拡大に重点的に取り組んでいるということであった。



### **Grafunkt 社訪問 (1/15 14:30~15:30)**

ジェフェリー代表よりカンディハウス旭川（家具メーカー）との海外パートナーシップの状況についてお話をいただいた。旭川家具は高級なジャパンプランドと品質が高く評価されており、中～高所得層に非常に人気があるとのことで、シンガポールで一番の売り上げがあるとのこと。海外パートナーシップについて意見交換を行い、ジェフ社長からは国際的な視野を持って自社のブランド力を高める必要があるとのアドバイスなどもいただいた。



### **クレアシンガポール訪問 (1/15 16:00~17:30)**

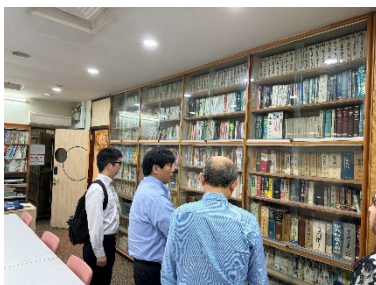
今井・瀬戸口所長補佐より、シンガポールでの民族融和政策などについてレクチャーをいただいた。2023年シンガポール総人口 591 万人のうち、外国人の割合が約 30%（177 万人）永住者が 9.1%（54 万人）となっており、民族構成も中華系 74%、マレー系 13.5%、インド系 9%、公用語も英語・中国語・マレー語、タミル語となっている。このため公営住宅の入居者民族比率調整やコミュニティ組織の編成などさまざまな民族融和政策が行われてるとのこと。その後、事務所近くにあるマーラライオン公園を案内いただいた。



### **日星文化共生訪問 (1/16 10:00~11:00)**

張院長、Lai 学長より、同協会で運営している日本語教室の運営状況についてお話をいただいた。シンガポールではアニメなど日本文化に興味を持っている学生が多く、毎年 2 千人以上が入学しほぼ毎日日本語教室を開催していること、また行政などの補助金に頼らず、授業料のみで運営を行っているとのこと

であった。また日本文化紹介のイベントやお祭りを開催し多くの参加者に喜ばれているとのことであった。



### IR 施設視察 (1/16 13:00~17:00)

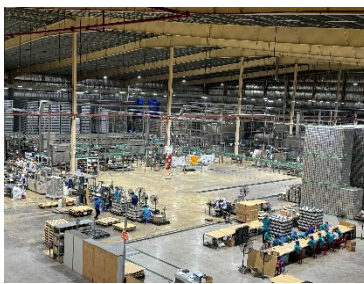
自治体国際化協会のアテンドにより、IRに関して、遊園地と一体となったファミリー向け施設（セントーサ島）、ショッピングモールやホテルとの複合型リゾート施設（マリーナベイサンズ）を視察。外国人客の入場チェックの厳格化や、外国人観光客の入場料を無料としている点など説明をいただいた。賭場としての暗いイメージではなくレジャーの一環として、観光客に好意的に受け入れられている印象があった。



## ○ベトナム

### ベトナムサッポロ訪問 (1/18 11:00~16:00)

白井社長より、サッポロビールの進出状況についてお話を伺った。同社は2012年に進出し、国内産やハイネケン・タイガーなど外資系が中心の市場の中でサッポロブランドの構築に取り組んでいるとのこと。現地社員の採用や採用後の研修、労使交渉などについて意見交換を行った。午後からはホーチミン市より40kmほどにあるロンアン工場を見学させていただき、工場長の人材管理などについてもお話を伺った。





### 日越工業大学訪問（1/19 9:30～10:30）

ベトナム最大規模の私立大学であるホーチミン市工業大学（HUTECH）を母体とし、2015年に開業した大学。NGUYEN 副学長より、同校の教育方針などについてお話をいただいた。

同校では、電子・情報・経営学・ホテルマネジメントなど16コースの学科を有し、日本語教育と日本のものづくりの方法を教育に取り組んでいるとのこと。また日本との連携によりインターンシップに力を入れているとのこと、インターンシップの可能性などについて意見交換を行った。



### ベトナム日本人材開発インスティテュート（VJCC）訪問（1/19 11:00～12:00）

日本とベトナムの両国政府合意のもと、JICAと外国貿易大学が協力し設立された国際人材育成機関。監物 JICA 専門家より、ベトナムの経済概況などについてお話を伺った。2022年ベトナムの一人あたり GDP は 4,200 \$ で、これは日本では 1970 年代にあたるが、一方でスマホ・ネット普及率は日本と同程度、また経済成長率 8%、人口増加も 2030 年まで続くなど、発展可能性を持っているとのこと。同協会では、日本式の経営を学ぶ「経営塾」を開講、年間 120 名の経営者を養成し、人脈や国内外の企業とのパートナーシップ構築を行っているとのこと、道内企業からもこれら人脈を活用したパートナーシップについて意見が交わされた。



### エスハイ訪問（1/19 14:00～16:30）

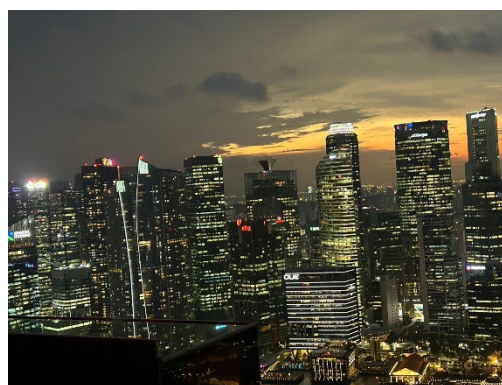
日本語教室を持つ国内最大規模の人材送り出し機関。日本語教室の見学や学生との交流を行った。また高城副学長より同社の活動内容についてお話をいただいた。

同社では業種別による日本語教育から送り出し先のマッチング、また送り出し後も日本支社との連携によるサポートなど一環した体制により、ミスマッチを

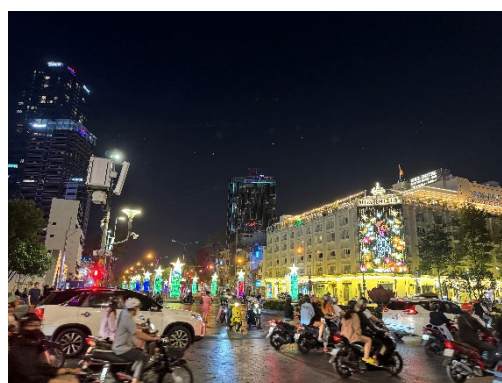
防ぎ実習生が安心して活躍できる環境づくりを行っており、受入企業からも高い評価を受けているとのこと。また校舎をつくる際には JICA からの融資も受けたとのことであった。



(シンガポールの街並み)



(ベトナムの街並み)



## シンガポールの再生水とベトナムの少女

井上 奨吾

2024年1月14日から1月21日、「海外派遣研修事業」に参加し、シンガポール・ベトナムを訪問した。この場を借りて、現地で見聞きしたことの一部を報告する。HIECCが定める今回の研修目的は「北海道と派遣国との経済交流」だが、私は個人参加ということもあり、シンガポールの水事情とベトナムの貧困についてフォーカスする。

### ・シンガポールの水事情 (NEWater Visitor Centre)

1月17日、シンガポールでの自由時間。ニューウォーター・ビジター・センターの見学ツアーに参加した。チャンギ国際空港のすぐ近くにあり、シンガポールのニューウォーター（以下、再生水）について学べる。ツアーは約1時間で、施設内をガイドさんが英語で案内してくれた。

日本では川から取水し、浄水後、水道管を通して各家庭へ配水されている。下水は処理センターで処理後、川に排水している。シンガポールでも流れは同じだ。しかしシンガポールは国土全域が平坦であるため、ダムで雨を貯水する能力が低く、自国の浄水だけでは国内水需要をまかなうことができない。そのため、マレーシアから水を輸入している。これは外交上弱みとなるため、第3、第4の水として導入しているのが再生水と海水を元にした淡水だ。再生水は下水を再生処理した水のことだ。処理した水は川ではなく、浄水場に送られ、川からの取水水とともに浄水されるらしい。衛生観念が高い日本人だと抵抗がある人もいるかもしれないが、札幌市民が飲んでる豊平川の水も、旭川市で下水処理された水が混合している石狩川の水が元なので、個人的には抵抗はない。

見学ツアーは社会科見学に来ていた東京の高校生グループと中国の小学生グループと私たちを合わせた3組で行われた。濾過フィルターや紫外線消毒装置などを見て、再生水の作り方について学ぶことができた。



### ・ベトナムの貧困 (リバーサイドホテルサイゴン周辺)

1月18日、ベトナム最初の朝。軽く散歩をしようとホテルを出ると、靴磨きの青年に声を掛けられる。「I have no money」と断るが、「free」と連呼するので、試しにやってみよう。しかし磨き終り時、急に「very cheaper」と言っていたことが変わりだしたため、すぐにその場を後にし、ホテルに戻る。彼らの文化のたくましい一部を垣間見た。

1月19日、朝。サップロベトナムの臼井社長にオススメされた川沿いをランニングして

いた。橋を渡って対岸に行くと、橋台の中にスマホをいじっている少女がいた。その少し向こうには数人の男性がいる。危ないとは思いつつ、話しかけてみた。少しでも危険を察知したら、今来た道へ逃げるつもりだった。意外にも少女は応答してくれた。お互い少しの英語とスマホの翻訳で会話した。彼女の名前はハイ、橋台で生活している。学校は中退したらしい。「両親は長い間一緒に住んでおらず、父が仕事で事故に遭ったとき、私はしばらく父と暮らしていましたが、母については原因がわかりません。」(スマホの翻訳原文ママ)とのことで、両親とは今は暮らしていないようだ。(死別かは不明)驚いたことに彼女、一歳の赤ん坊を育てていた。収入源は川で釣った魚を売っているとのこと。この日の会話はここまでだ。

1月20日、この日はベトナムでの研修最終日で日中は自由行動だった。午後3時から戦争証跡博物館行くこと以外は自分は予定を決めていなかった。昼ごはんをバインミーに決め、お店を探すが、今回の研修で自分はモバイルWi-Fiを持参していなかったため、慣れない道で迷子になってしまった。どこかWi-Fiがあるお店に入るか悩んでいる途中、昨日の少女のことを思い出した。橋に行くと彼女は昨日と同じ服装でいた。私は彼女に仕事として道案内を頼んだ。彼女は了承し、店に案内してくれたので、私は無事バインミーを買うことができた。報酬として4万VND(約245円。向こうの価値では3倍の735円)を払おうとしたが、10万VNDを要求された。赤ん坊のミルクを買いたいらしい。払うことはできたが、拒否した。周りの大人たちに没収されることを危惧したのだ。代わりに、戦争証跡博物館見学後に寄った高島屋でミルク・水・おむつを買い、現物支給をした。

彼女に将来やりたいことについて聞いてみたら、今はそれを考える余裕がないと答え、「dark future」と付け加えた。正しい努力をすれば現状は改善できる。勿論正論ではあるが、生まれた環境次第では努力をすることもできない現状がある。貧困は個々人の問題ではなく、人間社会全体の問題だ。

ホテルに帰る途中、川のこちら側にある公園では沢山の子供たちが両親が見守る中、遊んでいた。なんだかやるせない気持ちになった。



## ・総括

今回の研修は東南アジアの先進国と新興国を実際に肌で知ることができ、とても有意義だった。また、国際協力の現場で活躍したいというモチベーションがより強まった。個人申請をしてでも参加すべきオススメの研修である。

## 追い抜いた国と追いつく国、そして沈みゆく日本経済

川端 英司

この度の海外派遣事業でシンガポール、ベトナムを訪れた。8日間と短期間であったが両国を体感することで現在の日本の状況を俯瞰的に考えるよい機会となった。発達した近代都市のシンガポール、日本・中国の経済発展時を想起させる人の活気に満ち溢れたベトナムへの訪問により、自分自身が会社の発展のために気を抜くことなく仕事に取り組みねばならないという思いを抱いた。

### ・経済指標

私は2000年代初頭から米国の証券会社に勤務しており、日本・香港からシンガポールへの業務移管プロジェクトに携わった。2000年代になりシンガポールは、政府の税制優遇策、アジア・オセアニア地域の先進国の中で日付変更線に近く東よりに位置する地理的優位性、英語を公用語とする教育レベルの高さなどによって東アジアの金融ハブとして著しく経済発展した。

日本の国民総生産（GDP）は2010年に中国に抜かれ、2023年にドイツに抜かれ世界4位であり、未だにトップグループに位置している。この指標は国力を示す一定の数値のとしては適しているが、人口の多さが影響している。日本は、国民の一人ひとりの平均的な豊かさを示す一人当たりの名目GDP（USドル）では、2022年に33,853ドルで31位となっており、すでにトップグループではなく、その順位は年々下がっている。今回訪れたシンガポールは2007年に日本を追い抜き世界6位で88,884ドル、ベトナムは近年著しく成長しており121位で4,086ドルとなっている。これらの経済指標からも推察されるように、日本とシンガポールでは経済的豊かさの点において大きな差があり、その差は年々広がっている。私が最後に東アジアの国を訪れたのは約20年前の香港で、その頃東アジア圏では最も裕福な地域の一つであった。約3か月間の出張での滞在であったが、物価的に日本よりも高く感じることはなかった。今回の研修中、シンガポールでは商品、サービス、食の値段が非常に高く感じ、こういった経済格差を体感する場面はこれからアジアで増えていくのだろうと予見された。



### ・ITリタラシー

シンガポール、ベトナム両国でタクシーの手配、食事の配達などを依頼する Grab というアプリが普及していた。このアプリは非常に便利で、顧客がいる場所をピンポイントで指

定または微調整が可能で、必要であればチャット、音声電話で配達車とやり取りができる。タクシー手配の際には、先に目的地を入力し、料金があらかじめ利用者、タクシー運転手に表示される。また、タクシー運転手は自ら配車依頼を選択でき、利用者は料金を乗車前に把握することができる。特に印象的であったのは、利用者、配達者ともにこれらの有用な機能を巧みに活用していたことであった。日本にも似たような機能を持ったGOなどの配車アプリがあるが、所属しているタクシー会社が限定的であり、決められた空港などの行き先以外で料金をあらかじめ知ることはできない。さらに、チャット、音声電話などの機能を有用に活用している場面はあまりない。現在の日本のアプリケーション開発は法律・多くの経済的な制約があり、先進的なモノづくりよりクレーム・ITの活用があまり得意ではない層に配慮したモノづくりに比重を置かれている。

開発されるアプリの先進性だけでなくITリタラシー（ITを活用する能力）において両国との差は広がっていくのではないかと感じた。

#### ・就業意欲にあふれる若者

ベトナムでは日本語での職業訓練校であるエスハイを訪問した。多くの20代、30代の若者が日本での就職に向けて非常に意欲的に学習していた。授業中にお邪魔させていただいた教室では、学生たちはみな非常に明るく、素晴らしい笑顔で私たち団員に挨拶をしてくださった。複数の学生がこれから行く日本での仕事を希望に満ちた表情で説明しているのが印象的であった。私は日本でこのように多くの就業意欲に満ち溢れた明るい若者がいる場を見たことがない。私が学生の時も数十年前も同様である。当然私自身もそうではなかった。“働き方改革”が“働かない改革”になってしまっている今の日本を鑑みると、生産性においても今後日本との差がついていくと考える。



#### ・ベトナム VinFast の車

ベトナムではトヨタ、ホンダなどの日本車、メルセデス、BMWなどのドイツ車など多様な車が走っていたが、その中でも目をひいたのがベトナムの財閥系メーカーVinグループのVinFastの車であった。デザイン的には先に挙げた他の車メーカーのものと遜色なく先進的なモノに見えた。調べてみると会社が立ち上がったのは2017年で2023年8月には米国のNASDAQに上場を果たしている。その成長の速さは目を見張るものがあり、かつては世界で圧倒的なシェアを誇った日本の白物家電メーカーが今は韓国・中国のメーカーにそのシェアを奪われている現状から、現在、世界で一定のシェアがある日本の車メーカーの世界での行く末が憂慮される。

今回の海外派遣事業研修では、シンガポール、ベトナム両国の人々、経済発展に触れ、両国から日本を比較してみることにより、日本経済の容易ではない将来が今までよりもより具体的に想像された。また、その日本の一端で企業活動を行う自社の経営も、安穩と現状維持に甘んじた姿勢ではすぐに日本経済の引き波に飲み込まれてしまうという大きな危機感を抱いた。しかし、そうした現状にただ悲観的になるのではなく、日本経済の中で小石のような自社が少しでも成長できるよう、危機感を抱きながらも前を向いて、強い覚悟で経営していきたい。

今回の事業研修にあたり、多くの方に貴重なお時間をいただき、ご教授を賜りました。シンガポールでは北海道 ASEAN 事務所の岡崎所長、J. CLAIR シンガポール事務所を瀬戸口氏、宮田氏、ベトナムでは JVCC の監物氏に長い時間、研修にご同行・ご案内いただき、また非常に楽しい食事の時間を過ごさせていただきました。厚く御礼申し上げます。

最後に、HIECC には全行程の 8 日間団員を温かくまとめ、有意義な研修に導いていただきました。ここに深謝の意を表します。

## シンガポール・ベトナムでの研修

作内 志帆

### ・シンガポールでの研修

シンガポールはアジアの小さな島国で、シンガポールの面積は約 719 km<sup>2</sup>で、東京の 23 区とほぼ同じ面積だが、世界の金融センターや貿易拠点として高い経済発展を遂げていることを強く感じる事ができた。

シンガポールの初任給が日本円で 45 万円程度、世帯年収の平均が 980 万円ということに驚きを感じた。物価もシンガポールでは高い生活水準が求められるため、一部の物価は日本より高い傾向だった。家賃に関してもコンドミニアムで 20 万円程度～30 万程度が多く、衝撃を受けた。また、車の所有に関して高いコストがかかることも驚きを受けた。車を所有する権利証明書(有効期限は 10 年)も入札で取得し、車両本体も日本価格の 4～5 倍程度かかる。

シンガポールが発展した理由で、低い法人税による外資系企業の誘致や、相続税を設けないことなどにより世界の富裕層を集めることに成功しており、大きなお金を動かし経済を発展させようとしていることが感じられた。

一番興味深かったのが、高齢者が増加傾向であるにも関わらず、介護サービスのことをよく知らない方が多く、利用している方がとても少なかった。家族が高齢者のサポートを担っていることが多く、「両親扶養法」により、生計を立てることが困難な両親を子供が扶養することが義務付けられていた。そのため、家族が介護をすることがメインであり、街中に「一人で抱え込まないで」のポスターをよく目にした。介護施設やサービス自体もあるが、かなり費用が高いため、利用する方が少なく知られていないのが現状なのだと感じる事ができた。



### ・ベトナムでの研修

ベトナムは、日本の面積の約 88%に相当する約 331, 212 km<sup>2</sup>の国で、人口は約 9, 946 万人。日本は 1 億 2443 万人であるが、ベトナムは平均年齢が 31 歳で若い人々が多く、今後も人口が増加していくことを感じる事ができた。

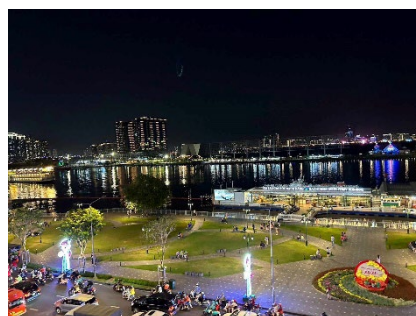
ベトナム(ホーチミン)は、経済があまり発展していないかと思っていたが、現代的な高層ビルも多く、移動手段として地下鉄が今年中には完成予定とのことだった。また、タクシーの数も多く日本のタクシーよりも安価であったため、とても利用しやすく感じた。

ベトナムの平均年収は、約 48 万円前後(月収：約 4 万円)であり、日本と比較すると約 9 倍



もの差があることにとても驚きを感じた。

ベトナム人は向上心旺盛で、勤勉で教育を重んじる傾向があると強く感じた。また、銀行の利率も非常に魅力があり(一般的に 5-7%)、人件費も安く、魅力的な消費市場であることを知る事が出来た。



#### ・終わりに

今回の研修で、訪問先では日本に対して好感を抱いている方が多く、とても嬉しく感じました。実際にそれぞれの国に行くことで、文化の違いを学ぶことができ、有意義な研修でした。今回の研修で感じたことを、今の事業に少しでも活かしていけたらと思います。本研修でお世話をしていただきました関係各所の皆様、団員の皆様、今回の素敵な研修の機会を作っていただきました HIECC の皆様、この度は大変お世話になりました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

## 経済人材交流における日本とシンガポール、ベトナムの関係

日影 一哉

### ・はじめに

シンガポールとベトナムへの視察を通じて、両国の歴史、伝統、現代文化の要素に触れることが出来ました。また、現地で仕事をしている日本人の方々や、現地の方々と交流をしないと分からない、実感のある経済状況やビジネス機会、実際の課題などのお話を聞き、体験することが出来ました。

### ・シンガポールの印象

シンガポールは多様性が際立つ国という印象が強く残りました。様々な文化が共存しており、英語が喋れない私にとっても、人種への壁を感じることもありませんでした。現地の方は、誰がどこで何をしているともあまり気にしていない様子でした。街中には監視カメラが多く設置してあり、治安については、夜に一人で歩いても大丈夫な感覚を受けました。多様性という言葉は良く聞きますが、シンガポールでは宗教、言語、食文化の調和を重視している印象を受けました。特に言語については、公用語を「英語、中国語、マレー語、タミル語」とし、国語を「マレー語」、共通語を「英語」としており、多様性の中で自らの伝統や習慣を守りつつ、各文化は共通の基盤で調和を保っていることに驚かせられました。訪問した「北海道 ASEAN 事務所」「日星文化協会」「CLAIR」などでは、日本文化の理解を深めるためのイベントや交流プログラム等の活動を紹介して頂きました。日本や北海道に対する、シンガポリアンからの印象は良く、地元のホーカー（屋台）で食事をした際にも、北海道から来たと伝えたところ、快く迎え入れてくれました。

### ・シンガポールの経済状況

訪問した「JETRO」では、シンガポールの経済状況、日系企業の進出動向についてお話を伺うことができました。シンガポールはGDP（国内総生産）ベースで見ると世界有数の経済大国であり、高い所得水準、生活水準を誇っているという話は日本でも聞くことがありましたが、実際に現地を視察すると、聞いていた話を上回る高層ビル群や、娯楽施設、ICT 技術を活用した高品質なサービス、張り巡らされたインフラが提供されており、非常に整った環境を体感することができました。そのようなメリットもある一方で、物価やオフィススペース、店舗の賃貸料は高い傾向にあり、自動車の増加抑制、渋滞抑制を目的として、自動車関連の税金等が高く設定されているなど、日本企業がシンガポールに進出する際には、規



制に対する理解、駐在員の費用、多文化であり、多様な人材が集まっている労働市場・ビジネス文化への適応を考慮することが重要だと感じられました。

### ・ベトナムの印象

ベトナム（ホーチミン市）は非常に安価な路地の屋台から、高級ホテルや高級レストランが同じ区画に存在し、価格の差が非常に大きい国という印象が強く残りました。若い人が多く、客引きも多く、日本でもよく紹介されているバイクの多さに対し、人々の熱量が高いと思いましたが、一方で急速な経済成長による物理的な溝や、金銭的な溝を見ることができました。GDPの規模が急速に増加している状況は、実際に訪問しないと分からない、言語化するには難しい空気感だと感じる事ができ、貴重な視察となりました。

### ・ベトナムの経済状況

訪問した「サッポロベトナム」では、ベトナムにおける「サッポロビール」の販売状況、ブランディング方法、工場視察では、地元労働者の雇用状況や教育方法などのお話を伺うことができました。特に、ベトナムの方々の労働に対する考え方や気質を、実際に現地で働いている立場から教えて頂いたことは、技能実習生等を受け入れる際の参考となりました。

### ・日本とベトナムの人材交流

ホーチミン市工業大学 (HUTECH) を母体とした「越日工業大学」、送り出し機関の「ESUHAI」を訪問し、生徒のお話を伺いました。どちらの訪問先も日本語教育や日本のマナー教育に力を入れており、生徒の方々も積極的に学んでいました。短い準備期間で日本語を習得し、日本の生活や労働環境に適応していこうという熱意を感じました。生徒の方々からの日本の印象は、「礼儀正しく、真面目で、勤勉」というものでした。また、日本の文化や伝統など様々な良い印象を持っていることが分かりました。技能実習生やインターンなどの受け入れに対し、これらの要素が、今後も日本とベトナムの友好関係や交流を促進していくと感じられました。



### ・まとめ

言語や文化の違い、経済発展の状況などによる課題はありますが、経済人材交流は、両国間の発展において不可欠な要素であり、これからも拡大していくことを、今回の視察で学ぶことができました。また、訪問先でお話を伺い、ビジネス環境を整えるためには、政府、企業、教育機関が協力して取り組むことも不可欠であると理解しました。今回の視察で経験した、現地に行ってみないと分からないことを、微力ながら今後の経済人材交流に活かしていこうと思いました。

## 海外派遣事業に参加して感じたこと

藤岡 俊也

### ・はじめに

今回、海外派遣事業に参加させて頂きましたがシンガポールとベトナムの知識が全く無い状態で海外派遣事業に参加することが決まりました。

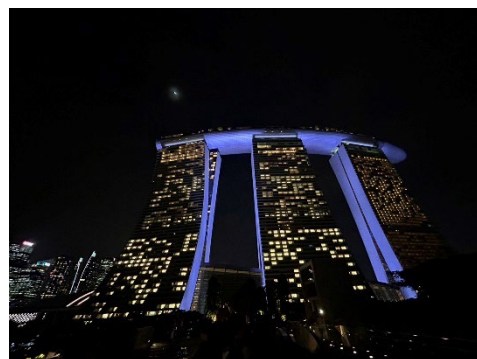
私はコロナで中止となった平成31年度の時は参加する予定ではなく今年度の参加申込の締切り直前に参加することが決まったので慌ててシンガポールとベトナムについてどのような国なのか調べたところ、シンガポールは東南アジアのイメージとは全く異なり高度に発展した都市国家であるということが分かりとても興味を持ちました。又、ベトナムについては平均年齢が日本より15歳程ほど若く若者が多い国だと分かりエネルギーに満ち溢れているのではないかと思います。

### ・シンガポール

シンガポールに入国してまず思ったのが「暑い!」「湿度が高い!」でした。そしてホテルに向かう途中で見える植生の違いや地震のない国ならではの日本ではありえないような形のビルに驚きました。

シンガポールでは北海道ASEAN事務所、CLAIR、日本語学校等を訪問しシンガポールでの活動状況やシンガポールの現状を教えて頂きました。そこで感じたことは物価の高い都市なので企業としてシンガポール進出をするには初期投資の面等でハードルが高いだろうと思いましたがシンガポールで成功できれば企業にとって大きなメリットがあるのではないかと思います。初期投資が少なく済むような事業やリモート等現地で作業をしなくても済むような分野であれば大いに可能性があるのではないかと感じました。

シンガポールの街並みは綺麗で高層ビルも多く高度に発展していました。又、治安も良く多人種国家ということもあり人種差別的なものも少なく、観光でも居住でも日本人に合っていると思いました。



### ・ベトナム

シンガポールを出発しベトナムに着いたのは夜でした。札幌では大雪で交通障害も出ていると家族から聞いていたがベトナムはシンガポールと同様にとっても暑かった。ホテルに向かう車の車窓から感じたこととしては「バイクが多いし交通量が多い」「独特な活気がある」でした。

ベトナムでは VJCC、サッポロのピール工場、人材教育等を行っている日本企業を訪問しベトナムでの活動状況やベトナムの現状を教えてくださいました。ベトナムはシンガポールと違い物価が日本に比べて低いことやインフラ等の整備がまだまだ整っていないと感じました。ベトナムでは物価が低いこともあり進出する時の初期投資は低くて済みますがリターンが比較的低くなると思われしますのでベトナムから日本への人材活用が合っているのではと思いました。但し、数年働いたらベトナムに戻りたいと思う人が多いようなので高度な技術者系の人材確保は難しいと感じました。

ベトナムの中心地は比較的ゴミも少なく綺麗でしたが少し郊外に行くとゴミが多く建物もボロボロなものが多く発展途上国という感じがしましたが、これからどんどん発展していくぞというパワーをすごく感じました。



#### ・おわりに

8日間という短い期間でしたが今回の海外派遣事業に参加しとても貴重な体験ができました。両国共に偶然出会った人たちも親切な方が多かった印象で親日家が多いのかなと思いました。

実際に海外に行ってみると見たもの感じたものは写真や動画で見たものとは違うと実感しています。これからの北海道経済の発展には現在よりも多くの海外との協業や進出が不可欠だと思うので、より多くの人たちが実際に海外に行ってみて多くのことを見て感じてみてほしいと思います。

又、スマートフォンの便利さが身に染みて感じました。電車やバスに乗るのも簡単に調べられますし、タクシーを使用する場合も事前に料金が確定していました。翻訳機能で現地という言葉や英語ができなくてもある程度の会話ができ、ローカルな所以外はキャッシュレス決済が使用できる場所が多くありました。スマートフォンがあれば困らずに何処にでも行ける便利な時代になったと痛感しました。

最後に HIECC はじめ団員の皆様や海外派遣事業参加に携わってくれた方みなさんに感謝と御礼を申し上げます。

## 行 動 記 録

| 日付          | 発着・滞在地   | 交通機関                          | 時間   | 内 容  |
|-------------|--|-------------------------------|--|--|
| 1/14<br>(日) | 新千歳空港<br>新千歳空港→<br>羽田空港<br><br>羽田空港→<br>チャンギ国際空港<br>(シンガポール) | JL500<br><br>JL037<br><br>専用車 | 6:50<br>7:50<br>9:30<br><br>10:55<br>17:30<br><br>18:30<br>19:10 | 新千歳空港 国内線ターミナルに集合<br>羽田空港へ向け離陸。<br>羽田空港に到着、バスで国際線Tへ移動し、シンガポール行き出発時間まで待機<br>シンガポールに向け出発<br>シンガポール・チャンギ国際空港へ到着(時差・1h)。現地ガイドと合流。空港内のコンビニでSG ツーリストパスを購入する。<br>バスにてホテルに向かう。北海道との気温差にて南国に来たことを実感する。現在は雨期で毎日雨が降っているとのこと。また、意外に車が少ないことに驚く。ガイドさん曰く、車を所有する権利を約1,000万円で購入しなければならないこと。車も日本と比較して3倍ほどの値段と聞き一同驚く。<br>シーケアホテルに到着。<br>ホテルから徒歩5分ほどにある「赤星飯店」にて夕食。<br>中華料理を食べる。懇談中、1室に清掃が行き届いていない不具合が発覚(後にクレームを入れる)。食後は付近のマーケットにて日用品やお土産を買い解散。 |
| 1/15<br>(月) | シンガポール   | バス<br><br>MRT                 | 10:20<br><br>11:00<br><br>12:00<br><br>13:00                     | 道 ASEAN 事務所の岡部所長とホテルロビーにて合流。バスの乗り方を教えてもらいながら移動<br>JETRO シンガポールに到着。<br>本田シニアアナリストより、シンガポールの経済状況についてレクチャーを受ける。<br>終了<br>昼食は、JETRO 近くにある「ラオパサ・ホーカーズ(屋台)」にて、チキンライスやラクサなど各々シンガポール料理を食べる。食事が高いイメージであったが、ここでは1食10\$程度とリーズナブルだった。<br>食事終了。<br>道 ASEAN 事務所に向け出発。<br>" 到着<br>北海道事務所はカフェのようなコミュニティスペ  |

|             |        |       |       |  |
|-------------|--------|-------|-------|--|
|             |        | MRT   | 14:00 | 一室の一室にあり、岡部所長から改めて活動概要などについてレクチャーを受ける。   |
|             |        | MRT   | 14:30 | 終了<br>Grafunkt 社に向け出発<br>〃 到着<br>同社はショッピングモールの 2 階にあり、カンディハウス (旭川家具) ほか、様々なメーカーの家具を展示していたが、いずれも高額の値札が貼られており、売約済みも多々見受けられた。ジェフェリー代表と意見交換。 |
|             |        | MRT   | 15:30 | 終了<br>クレアシンガポールに向け出発   |
|             |        | 徒歩    | 16:00 | 建物前で岡部所長をお別れし、クレアシンガポール宮田氏の案内にて移動。事務所で瀬戸口氏とも合流し、2 名よりレクチャーを受ける。  |
|             |        | MRT   | 17:00 | 終了<br>ホテルまでの帰り途中にマーライオン公園を案内いただく。一同はじめて見るマーライオンやマリナーベイサンズに感動する。報告書表紙に使用する団体写真を撮影。  |
|             |        | MRT   | 17:40 | 終了<br>夕食交流会場に向け出発  |
|             |        | 徒歩    | 18:00 | 中華料理店「老東北」到着。クレアシンガポール 2 名と道岡部所長を交えて夕食懇談。  |
|             |        | 徒歩    | 20:00 | 終了<br>徒歩にてホテルに移動し解散。   |
| 1/16<br>(火) | シンガポール | 徒歩    | 9:00  | ホテルロビーに集合。シンガポール滞在中はじめて  |
|             |        | MRT   | 9:20  | 雨にあたる。チャイナタウン駅でクレアシンガポール職員 (2 名) と合流し、星日文化協会に向け出発<br>星日文化協会に到着 (雨は止んでいた。)  |
|             |        | MRT   | 10:00 | 張院長、Lai 学長と意見交換。その後日本語教室や図書室を案内いただく。   |
|             |        | モノレール | 11:00 | 終了<br>セントーサ島に向け出発  |
|             |        |       | 12:00 | 到着。島内にある「マレーシアン・フードコート」にて昼食。携帯から QR コードを読み取って注文するスタイルだったが、在住電話番号を入力する必要があったため、クレアシンガポールのスマホにてオーダーしていただく。1 食ドリンク込みで一人 20 \$ ほど。           |

|             |       |                   |   |   |
|-------------|-------|-------------------|---|---|
|             | ホーチミン | モノレール<br>MRT      | 13:00<br>15:00<br>16:00<br>18:00<br>19:00 | <p>セントーサ島内にある IR 施設見学。ユニバーサルスタジオに併設されているなど、ファミリー層も多かった（但しカジノは 21 歳から）。入館時の厳重なパスポートチェックに驚く。</p> <p>終了<br/>マリーナベイサンズに向け出発</p> <p>” 到着<br/>館内にはヴェネチアを思わせる運河や、高級ブランドショップが立ち並び、ネットや雑誌でよく見ていた巨大施設を実際に目の当たりにし驚愕。カジノは地下に入居していた。たばこ 1 箱 25\$ で売られていた。</p> <p>地上 57 階にある展望デッキにて軽く夕食。</p> <p>終了<br/>周辺施設を散歩しながらホテルに戻り解散</p>  |
| 1/17<br>(水) | ホーチミン | 専用バス<br><br>VN654 | 15:30<br>16:30<br>18:25<br>20:00<br>21:30 | <p>フライト時刻まで自由行動。ニューウォータービジターセンター見学班、アラブストリート散策班、知人訪問の 3 グループにわかれて市内を散策。</p> <p>ホテルロビー集合<br/>空港へ向け出発<br/>車中、市内に緑が多いことが話題となり、ガイドさんよりガーデンシティ（緑化政策）について説明を受ける。</p> <p>搭乗チェックイン</p> <p>ベトナムへ向け出発</p> <p>タンソンニャット国際空港に到着（時差・1h）<br/>現地ガイドと合流<br/>バスで移動中、バイクの多さに驚く。ガイドさんの話では、50CC 以下のバイクは免許が不要とのこと。子どもを乗せた 3 人乗り（4 人乗り？）なども見かけハラハラする。</p> <p>リバーサイドホテル着<br/>解散</p> |
| 1/18<br>(木) | ホーチミン | 専用車               | 10:30                                     | <p>ロビー集合。<br/>（9:30 から訪問予定であったベトナム投資開発銀行について、担当者がインフルエンザ感染のため急遽中止となったため、予定を 1 時間繰り下げとなった）<br/>ホテル出発。</p>  |



|             |       |            |   |   |
|-------------|-------|------------|---|---|
|             |       | 専用車<br>専用車 | 11:00<br>12:00<br>13:00<br>14:30<br>15:30<br>17:30<br>19:00 | <p>サッポロベトナム到着<br/>白井社長よりサッポロビールの海外展開戦略や人材採用・管理について説明いただく。</p> <p>終了<br/>昼食は白井社長と一緒に「マンダリン」にてベトナム料理を食べる。</p> <p>ロンアン工場に向け出発。白井社長が同乗し、道中もベトナムの街並みなどについて説明を受けながら移動。</p> <p>ロンアン工場到着<br/>白井工場長より、人材管理について話をいただく。一人で60人のベトナム人スタッフを管理しているという話に驚く。その後工場を案内してもらう。</p> <p>終了<br/>ホーチミンに向け出発</p> <p>白井社長と別れ、宿泊してるホテルの近くにあるルネッサンスリバーサイドホテル内の中華レストランにて夕食。白井社長が事前にレストランに連絡してくれて、サッポロビールをごちそうになる。</p> <p>解散</p>   |
| 1/19<br>(金) | ホーチミン | 専用車<br>専用車 | 9:00<br>9:30<br>10:30<br>11:00<br>12:00<br>13:00<br>14:00   | <p>ロビー集合<br/>ホテルを出発</p> <p>9:30<br/>日越工業大学に到着。VJCCの監物氏と合流し、キャンパスを見学。桜のオブジェの前で和服を着た学生が写真を撮ったりしていた。HA MINH TUAN副学長ほかから歓迎を受け、インターンシップの様子について説明を受ける。</p> <p>10:30<br/>終了<br/>VJCCに向け出発</p> <p>11:00<br/>" 到着<br/>監物氏より、ベトナムの概況や協会の活動について説明を受ける。</p> <p>12:00<br/>終了<br/>昼食は監物氏とともに「ANH TUKK」にてベトナム料理を食べる。帰り際、レストランの壁にミシュランプレートを発見し驚く。</p> <p>13:00<br/>エスハイに向け出発。監物氏も同乗し、車中で街並みなど説明を受ける。ベトナムは現在乾期のためほとんど雨が降らないとのこと。</p> <p>14:00<br/>エスハイ到着</p> |

|             |  |       |   |  |
|-------------|--|-------|---|--|
|             |  | 専用車   | 17:00<br>18:00<br>20:00                   | <p>高城氏と中川氏より、同社の説明を受けた後、日本語教室の様子を見学。日本式のあいさつ作法がよく訓練されていた。その後ふたたび意見交換。</p> <p>終了<br/>夕食会場に向け出発</p> <p>VJCC 監物氏、エスハイ高城氏とともに「PIZZA 4PS」にて夕食懇談。日本人がベトナムで起業し成功、現在ではカンボジア・インド・日本でも展開しているレストランで、多くの地元客で賑わっていた。地産地消をコンセプトにしているとのことでベトナム産チーズを使用したピザなどいただきながら楽しく懇談。</p> <p>終了<br/>ホテルに戻り解散</p> |
| 1/20<br>(土) | ホーチミン<br><br>タンソンニャット<br>国際空港<br>→羽田空港 | JL070 | 18:00<br>18:30<br>19:30<br>20:30<br>23:40 | <p>フライト時間まで自由行動。<br/>ベントイン市場班、戦争記念館班の2グループに分かれて市内散策。</p> <p>ホテルロビー集合</p> <p>Nha hang ngon にて最後の晚餐。</p> <p>レストランを出発<br/>タンソンニャット国際空港に到着<br/>カウンターオープンまで時間があつたため空港内で時間を潰す。</p> <p>搭乗チェックイン<br/>羽田空港へ向け離陸。</p>  |
| 1/21<br>(日) | 羽田空港<br>→新千歳空港                         | JL507 | (日本時間)<br>6:50<br>9:00<br>10:35           | <p>羽田空港に到着 (時差+2h)<br/>乗り継ぎのため、バスにて国内線 T へ移動</p> <p>新千歳空港へ向け離陸</p> <p>新千歳空港に到着<br/>新千歳空港内にて解散式</p>   |





公益社団法人  
**北海道国際交流・協力総合センター**  
**HIECC/ハイエック**  
(旧 社団法人北方圏センター)

---

Hokkaido International Exchange and Cooperation Center  
Hokkaido Government Annex West-7, North-3, Chuo-ku  
Sapporo, Hokkaido, 060-0003 JAPAN  
PHONE: +81 (11) 221-7840 FAX: +81 (11) 221-7845  
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目(道庁別館12階)  
TEL: 011-221-7840 FAX: 011-221-7845  
URL: <http://www.hiecc.or.jp>  
E-mail: [hiecc@hiecc.or.jp](mailto:hiecc@hiecc.or.jp)